

電源管理を制するものは 生産管理を制す

～今を支える富岡高校ハンドボール部での経験～



勅使河原覚
(昭和62年卒)

小学校時代は少年野球に、中学校時代は陸上競技に没頭していた私は、富岡高校に入学すると同時に何の迷いもなく、もっとも練習が厳しかったハンドボール部に入部しましたが、なぜ入部したのか全く記憶に残っていません。

入部当時の富高ハンドボール部は、あかぎ国体の余韻が残るなか、全国制覇を目標に掲げ、厳しく過酷ともいえるような練習を行っていました。レギュラーもサブも同じ練習メニューを行い、練習の終盤には体力の限界を迎えた中でのうさぎ跳びが日課であり、動かなくなった足を引きずりながら練習に打ち込んでいましたが、苦しい中でもチームメイト全員が手を繋ぎ、目標に向かって一つのボールを夢中で追いかけて、充実した3年間であったことを思い出します。

その結果、3年生の夏にはインターハイで3位となり、中国遠征も経験でき、ハンドボールを通じて「練習量は嘘をつかない」「役割分担を明確にし、チーム一丸となって勝利を掴むチームワークやフォロワーシップの重要性」「目標を具現化すれば叶わずとも目標に限りなく近づける」ということを学んだ気がします。そんな辛い練習を3年間サブとして耐えた私ですが、大学受験には失敗しました。今振り返れば、明確な目的・目標がないまま、情性的に大学を受験したためだと思いつくづきます。

その後、父が製造業を営んでいたため、アルバイトとして家業に従事しました。私は父が引いたレールに乗ってこのまま家業を継ぐということに対する反発心もあったためか、父との口論をきっかけに家を出ました。一生この家には戻らないだろうといった思いを抱き、家出同然で東京に行き、富高時代の知人の所に間借り生活を始めました。職探しを行い、苦労を重ねてサービス業に就職することができました。やっと食べられる程度ではありましたが、誰からも何も言われずに自分の力だけで生活できていることは非常に満足感がありました。

そんな中、母から一本の電話が入り、父が入院したこ

とを知らされます。母からは「実家に帰って、家業を継いでもらいたい。」とその後何度も電話があり、父への反発心は常に持っていました。勅使河原家の長男として家を継ぐ気持ちが沸々と湧いていました。ただ、母には1年の猶予期間をもらいたいといった条件を提示しました。その間、県内の工場で2交代勤務をしながら、製造現場を肌身で感じてから、平成2年に家業である「栄光製作所」に入社いたしました。

入社当時はバブル景気が終焉を迎えようとしている時期であり、それから間もなく、バブル経済が崩壊し、失われた20年と呼ばれる低成長期のデフレ経済に突入しました。国内製造業の海外生産移転が加速して、当社が受注していた製品の80%も中国に移管されました。毎日毎日、資金繰りに苦慮して、倒産の2文字が常に頭をよぎりました。何をやっても結果が出ない、他人が信用できないなどと自暴自棄に陥り、妻や両親とも喧嘩が絶えない日々が続きました。

そんなある日、金融機関に淡い期待を抱きつつ、融資の相談に行きました。店長さんと担当者さんに対応していただきましたが、決算書を基に担当者さんが計算機をはじめ、「勅使河原さん、この金額でしたら融資できます。」と計算機の金額を見た時は愕然として、当社の力の無さに気付かされて、とても情けなくなった記憶が今でも鮮明に蘇ります。この出来事から、力の無い企業は融資を受けられない。融資を受けるにはそれなりの力が必要なのだ改めて思い知らされ、金融機関とは、困ったときに企業に融資してくれるところだと思っていたが、融資してもらえない現実を目の当たりにして、どこか他人のせいにして自分を顧みることができました。それからは他人任せにはせず、無我夢中で一心不乱に仕事に没頭しました。富高ハンドボール部の練習のように夢中がむしゃらに仕事をしましたが、何をどのようにやったのかはよく覚えていません。但し、無我夢中に仕事をしたからこそ、「夢・目的・目標・継続・チー



ムワーク・メンバーシップ・フォロワーシップ・最後まで諦めない気持ち」など富高ハンドボール部時代に抱いていた大切なことに気付かされました。

月日は流れ、平成23年には代表取締役となり、会社経営を創業者の父から譲り受けました。当時の日本はデフレ経済の真ただ中であり、業績は今一伸びず、ここでも倒産の2文字が頭の中をよぎりました。また、平成20年のリーマンショック以降は、金融機関からも経営再建計画の策定を告げられ、「本当に倒産してしまうのではないかな」と思うほどまでに追い込まれました。そんな状況下でも、富高ハンドボール部時代の恩師に良く言われた「あなた方は、どん底(地獄)を見ていないから駄目だ。練習で地獄を見ろ。」「気持ちは技を制するのだ。(気は技を制す)」の精神を思い出すとともに、今までに築き上げた数多くの友人や知人、取引先の関係者や従業員の力を借りることで、数々の経営危機を乗り切ることができました。「企業は人なり、人財なくして企業の発展なし、人が最大の資産」を経営者となり改めて痛感いたしました。

そんな当社も、平成26年度に中小企業では初となる「エネルギー管理優良事業者等関東経済産業局長表彰」を受賞することができました。

富高ハンドボール部の恩師の教えである「気は技を制す」を参考にした当社の経営方針である「電源管理を制するものは生産管理を制す」を掲げ、電気使用量の削減と省エネ活動の推進、並びに製造現場の生産性向上を同時に実現する生産システムを構築できたことによるものです。更には、経営者である私が目指すべき会社経営の方向性を全社員へ意識付けることが重要であることも、団体競技であるハンドボール部時代の監督と選手、レギュラーとサブといったチームワークとフォロワーシップ等の人間関係、並びに意識改革と意志統一、目標を明確

とした日々の取組みなどが今の会社経営に役立っていることを考えると、富高ハンドボール部への入部は運命であったと感じています。

当社は、私の富高ハンドボール部での経験と、数多くの人々との出会いによる教えが会社経営の精神的な土台となっており、今後も「チームワークとチャレンジ精神」をモットーに「電源管理を制するものは生産管理を制す」を引き続き実践し、省エネ活動のモデル企業として、日々精進して参ります。

(株式会社栄光製作所 代表取締役)

株式会社くらす ～14周年～
代表取締役
倉澤篤史(昭62高卒)

笑顔と健康 身体と脳のトレーニング
エンタメ体操 会員

〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央1-23-19 2F
TEL 045-501-7110
FAX 045-501-5511
携帯 070-6993-0196
URL <http://www.kaigoya.jp>
E-mail genie@ozzio.jp